

地学と切手

トリスタン・ダ・クーニヤ
のチャレンジャー六世号
寄港100年記念切手

P. Q.



1972年 トリスタン・ダ・クーニヤでチャレンジャー六世号寄港100年記念切手4枚が発行された。トリスタン・ダ・クーニヤは大西洋中央海嶺から少しはずれてはいるが大西洋の真中にある火山島で1506年ポルトガル人によって発見され最初の定住者は1810年からである。1816年から英領となり現在はセントヘレナの属領で二百数十人が漁業を主な産業としている。

チャレンジャー六世号(H. M. S. Challenger)は2,308トン補助エンジン1,234馬力を有する機帆船で艦長のGeorge S. Nares大佐指揮のもと1872年12月イギリスを出航した。これは世界最初の科学的目的で行なわれた海洋巡航で3年半後の1876年5月にFrank Thomson艦長が指揮して帰航するまでに69,000マイルの航海と362点の観測を行なった。その航跡は数回にわたり大西洋を横断してケープタウンに行きそこから蒸気船としてはじめて南極海に入ってこれを東進しメルボルンニュージーランドフィジー諸島バンダ海南シナ海を経て横浜に着きそれから太平洋を横断しホノルルタヒチバルパライソから南アメリカ西岸を南下しマジェラン海峡モンテビデオアゾレス諸島を経由して本国に帰着した。チャレンジャー六世号にはC. Wyville Thomsonと5人の科学者が乗っており乗組員の協力の下に膨大な試料を集積した。

帰航後1881年から1885年にわたりはじめはThomsonの手で1882年の彼の死からはJhon Murrayによって50巻29,500ページに上る報告書が刊行された。英国領政府がこの航海と報告書の刊行に費したの20万

ポンドであったといわれる。

チャレンジャー六世号の航海報告は海洋学の上で第1に海洋生物学(50巻のうち40巻が含まれている)海底地質海洋化学海洋物理の4部門で貢献した。海底地形についていえば現在知られている海溝のほぼすべてがこのときに明らかになった。この時の測深には麻縄が用いられていたため2000mの測深を行なうのは大変なことであった。Murrayがチャレンジャー報告に用いた5500mより深い測深記録は世界で約550点しかなかった。これらはすべて近代海洋学の基礎を作った古典であった。

4P: チャレンジャー六世号内の実験室

5P: トリスタン島を離れるチャレンジャー六世号

7 1/2 P: ナイチンゲール島を離れるチャレンジャー六世号の揚陸用舟艇

12 1/2 P: チャレンジャー六世号の大西洋上の航路 往路と復路の2回寄航している。

各切手の横には当時使用された深海探査用の採泥器の各種が示されている。現在のクラムシェル型グラブの草分けといえるものでブルドックマシンと呼ばれ1869年に調査船ブルドック号に搭載して使用されたものである。なお世界最深点(10,850±20m)として有名なチャレンジャー海淵はグアム島の南西約300kmのマリアナ海溝の南部(11°21'N, 142°15'E)海域において1951年6月にチャレンジャー八世号によって発見されたものである。